

法遍寺 から大切な 皆様へ

2019年5月1日

日蓮正宗 年間方針

勇躍前進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成

勇猛果敢の折伏

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で折伏推進

誓願達成

罪障消滅

② 講中一結で御講参詣

異体同心の団結

折伏成就

③ 登山参詣で育成推進

心身浄化

功德无量

〒488-0881

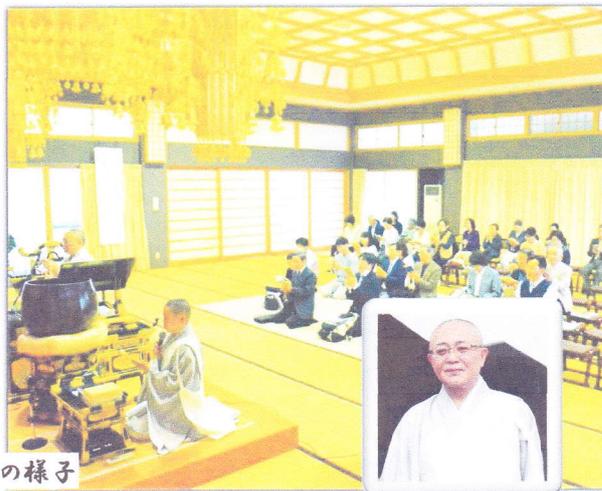
愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2019年4月14日の御報恩御講の様子



住職 近藤道正

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について

法遍寺は静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

私たちは日蓮大聖人の法門を、聞いて、あるいは書物などによって知り、幸福と成仏にいたる原理として受け止めていきます。法門を会得していくことは信心を深めるために必要不可欠ですが、その得た教学や信条を自身の向上と折伏に生かすことが大切です。法門に対する理解も様々なのが人ですが、自身が真摯に仏法の原理を学ぶところ、折伏の際にはその教学は必ず生きてきます。折伏は頭でするものではありませんから、要は相手の「ため」になる「仏の教え」を言って差しあげればよいのです。日蓮大聖人は、新池御書で「有解無信(うげむしん)」(1461頁)の人は、成仏は叶わないと仰せです。何故なら、仏法への理解を折伏に生かさないからです。法門への理解が自身の実践する勤行や唱題、折伏に反映しなければ、その会得した法は成仏の種とはならないのです。信行学の実践から勇躍が始まります。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ (前号の続き)

前号の経緯により、宗門は平成3年11月7日、創価学会に対し「解散勧告」を行ないました。しかし、学会はこれを無視し、宗門に対する悪口雑言をさらに強行してきたため、ついに11月28日、宗門は創価学会を「破門」に付したのです。宗門は、その実質的責任者である池田大作に対し、弁疏の機会を与えましたが、何らの返答もないため、平成4年8月11日、池田大作を「信徒除名処分」に付しました。このときの処置は、池田大作に対するものであり、個々の会員を日蓮正宗から排除するものではありません。宗門から破門された創価学会は、平成5年10月には、ついに「ニセ本尊」を作成し、会員宅の御本尊をこれに取り替えるという、仏法の根幹にかかわる大謗法を犯すに至ったのです。創価学会の墮獄へ向かう暴走を知って下さい。(次号に続く)

③ 正しい宗教に関心のある皆様へ

世の中には、「どんな宗教にもよい教えが説かれている」と言う人がいますが、これについて着目すると、一般的な道徳や常識という見地に立てば、人殺しや盗みを奨励しないかぎり、よい教えを説いているように見えます。しかし、宗教は個人の身体と精神を含む全人格が拠り所とするものですから、高い教えや低い教え、部分的な教えと大局的な教えの相違は、信ずる人間に対して敏感に影響します。仏教以外のキリスト教やイスラム教、儒教、神道なども人倫の道が説かれ、道徳的にはよい教えのように見えますが、人間の三世にわたる生命論や、個々の命と宇宙法界という無限の生命体との関係性までは説かれていません。法華経には、大綱をもって網の目を動かす、つまり人生を大きく動かす一法が存在します。法遍寺をお訪ねください。